

「伝え合う力」を育む学習指導の工夫 ～「話すこと・聞くこと」を中心とした国語科の取組み～

沖縄市立宮里中学校
教諭 根間 秀雄

I テーマ設定の理由

近年、頻発する子どもをめぐっての社会的な諸問題の根底には、異世代間や同世代間で円滑な人間関係を築いていくための国語の能力、特に話す力、聞く力などが十分に育成されていないことが、大きくかかわっているのではないかとされている。

情報化、国際化、価値観の多様化といった現代社会の急速な変化の中で、「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申）に「国語の果たす役割と重要性」が示された。その中には「意志や感情などを伝え合い、コミュニケーションを成立させることは、国語の最も基本的な役割である」とある。その後、全国学力テストや OECD の PISA 調査などの結果がマスコミで大きく取り上げられ、中央教育審議会等においても、一層国語の能力を向上させるべきであると指摘された。すべての教科、すべての学習の基盤となる「伝え合う力」の育成は、人間関係や人格形成、確かな学力を育む上でも重要である。

平成 20 年 3 月に告示された学習指導要領の総則では、「言語活動の充実」が特に重要視されている。国語科の目標には「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」とある。各学年の目標には「話す能力」「聞く能力」「話し合う能力」を身に付けさせるとともに、「話したり聞いたりして考えを」「まとめよう」「広げよう」「深めよう」する態度を育てる、とそれぞれ明記された。

このように国語科の目標に位置づけられ、社会的背景からも最重要課題とされている「伝え

合う力」を育成するためには、互いの立場や考えを尊重し、よりよい人間関係を作り、「話すこと・聞くこと」を中心とした「言語活動」を実践しなければならないと考えた。

子どもたちに目を向けると、「書くこと」に関しては、豊かな表現をする生徒もグループ学習や発表の場面で、きちんと「話すこと」を苦手とする生徒が多かった。また、積極的に発言・発表する生徒の中にも、わかりやすい言葉で表現できる生徒や、話の内容をしっかりと聞き取ることができる生徒など「話すこと・聞くこと」の能力に大きく個人差が見られた。このことは、普段の生徒同士の会話を聞いていても感じられ、例えば友人同士のトラブル等、些細な言葉の受け取り方の違いや、説明不足が原因となっていることが多々あった。

そこで、生徒一人ひとりの能力に合わせ、「話し方」や「聞き方」の段階的な指導・支援を行い、目的や場面に応じた言語活動（「話し合い」や「スピーチ」等）を研究・実践することで、言葉による「伝え合う力」を育みたいと考えた。さらに、そうすることで、お互いの立場や考えを尊重する態度を身に付けさせ、よりよい人間関係を築く力や、確かな学力を育むことにも繋がると考えた。

以上のことから、言葉で伝え合う場の設定や学習指導を工夫することにより、生徒が分かりやすく話をしたり、的確に聞いたりする「話すこと・聞くこと」の力が高まり、「伝え合う力」を育むことができるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

互いの立場や考えを尊重しながら、言葉で伝え合うことができる生徒。

III 研究目標

「話すこと・聞くこと」の言語活動の研究を通して、「伝え合う力」を育成する授業の工夫。

IV 研究仮説

1 基本仮説

「話すこと・聞くこと」の言語活動を充実させるために言葉で「伝え合う」場を設定し、学習指導を工夫すれば、「伝え合う力」を育むことができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 「話すこと・聞くこと」について捉えるとともに、「伝え合う力」を育成する授業の理論研究を深めることにより、学習指導の方向性が明確になるであろう。
- (2) 「話すこと・聞くこと」に関する実態調査や分析をし、指導計画を立てることにより、効果的な授業実践ができるであろう。
- (3) 「話すこと・聞くこと」を中心に個人の能力に合わせ、段階的な指導を工夫することにより、生徒の到達度に応じた「伝え合う力」を育むことができるであろう。

V 研究構想図

(次のページに記載)

VI 研究内容

1 研究内容 1

(1) 「伝え合う力」について

① 「伝え合う力」の意味

「伝え合う」という言葉は、「伝える」と「合う」の複合語である。辞書的な意味においては、それぞれ「伝える」は「必要な事柄を人に知らせる」、「合う」は「一緒になる・一致する・調和する」とある。「伝え合う」とは、決して一人だけでできるものではなく、一人対一人、一人対衆という双方向の意味合いが強い。そこには、人と人とのかかわり、すなわち「人間関係」とい

うものが「伝え合う力」に密接に関わってくる。

「伝え合う力」とは、

人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力

といえる。そして、「伝え合う力」とは次のようないくつもの要素を含んだものである。

- ア 受け止める力
「人の意見を正確に理解する力」
- イ 発信する力
「自分の考えを的確に表現する力」
- ウ 受け止め発信する力
「人の心をくみ取り、人の立場を十分に理解した上で自らの考えを表現する力」
- エ 比較する力
「人の意見と、自分の考えを比較しながら聞き取る力」
- オ 教師と生徒、生徒と生徒間の人間関係をつくる力
「自分の気持ちや考えを相手に安心して話すことができる力」
- カ 問題解決のために表現する力
「自分と相手の意見を交換し合い、よりよい考えを導き出そうとする力」

これらの力一つひとつは、どれも大切な力である。学校教育の場はもちろんであるが、社会生活の場においても大切な力であり、さまざまな場で「伝え合う力」となって発揮されていくのである。

②さまざまな「伝え合う」かたち

人は、心に思うことを言葉にして、他者に分かってもらい共有しようとする。「伝え合う」ということは、単なる人と人との受け答えではなく、「お互いの気持ちを共有したり」「相手を思いやったり」することである。それは心に思っていることの内容、相手への意識、知らせたいことを表現する目的や場所によって、さまざまな「伝え合う」かたち（型や方法）となる。

V 研究構想図



以下は、それを[A]と[B]の二つに分類し、列記したものである。

[A]は、双方向性（話し手対受け手、および受け手対話し手）の強いものである。受け手からの反応が必然である。

[A]

- 対話 問答 質疑応答
- 面接 面会 面談
- インタビュー 会見
- 相談 交渉
- 話合い 会話
- 座談 鼎談
- 会議 発議 提案 動議
- 議論 討論 パネル・ディスカッション
ディベート
- 挨拶

それに対して[B]は、話し手が一方的に表現されるものである。だが、時には、受け手からのイエス、あるいはノーの反応がある。

[B]

- スピーチ 談話
- 言明 明言（公式の場ではっきり言う）
- 宣言 宣告 声明（相手に言い渡す）
- 進言 建言 建議
- 告白
- 主張 発言 発表
- 演説 プレゼンテーション
- 講義 講話
- 説明 解説 コメント
- 伝達 伝言 通知 放送
- 報告
- 報道
- 紹介 案内 アナウンス
- 宣伝 広告 ポスター 標語
- 掲示 出版
- ロールプレイ 演劇
- 口承 口伝

私たちを取り巻く環境では、このように多く

の「伝え合い」のかたちがある。[A]も[B]も、話し手（発信者）と受け手（受信者）が共存している。つまり「伝え合う」には「双方向性」というものが必要不可欠であるといえる。

(2)「話すこと・聞くこと」について

①中学校学習指導要領 国語科の目標

平成 20 年 3 月に告示された学習指導要領における国語科の目標は、以下のように示されている。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

前半は国語の能力の根幹となる「国語による表現力と理解力とを育成すること」が、国語科の基本的な目標であると述べている。また、表現力や理解力を高めていくことによって、国語による話すこと・聞くこと・書くこと・及び読むことの活動をさらに充実したものにしていけることができる。そして、「伝え合う力を高める」とは、人間関係の中で、言葉によって適切に表現したり、正確に理解したりする力を高めることである。

後半の「思考力や想像力」とは、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力のことである。そして「言語感覚」とは、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの活動の中で、言語の使い方の、正誤・適否・美醜などについての感覚のことで、場にふさわしい言葉を直感的に判断したり、言葉が醸し出す味わいを感覚的にとらえたりすることである。

言語に対する感覚を豊かなものにしていくことは、生徒一人ひとりの言語生活や、言語活動を充実させることに役立てていく。そのためには、学習の積み重ねや継続的な読書は言うまでもなく必要であり、国語科の学習を、他教科等の学習や学校教育活動全体に関連させていく工夫も大切である。

②各学年における各領域の目標

学習指導要領「国語」には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」という四つの領域が示されている。各学年における各領域の目標は以下のように記されている。

	第1学年	第2学年	第3学年
話すこと・聞くこと	(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場などに応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
書くこと	(2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考える的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章に、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
読むこと	(3) 目的や意図に応じ、さまざまな本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	(3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	(3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

③「伝え合う力」と「話すこと・聞くこと」との関係

「伝え合う力」とは何かを考える際に、「話すこと・聞くこと」は、最も重要な領域だといえる。なぜならば、「伝え合う」という行為は、前述したように、「話す」と「聞く」の行為が主だからである。例えば一方が話し、一方がそれを聞く、という行為、また一方が尋ね、一方がそれに対し答える、という行為、また一方が意見し、一方がそれに反論するという行為、これらはみな「伝え合う」行為である。「伝え合う力」と「話すこと・聞くこと」は密接な関係にある。

前述の中学校学習指導要領 国語科の目標を受けて、学習指導要領解説「国語編」には次のような記述がある。

何のために話したり聞いたり話し合ったりするのかという意識をもち、場面や状況を考えた話し方や聞き方ができるようにする。

これは「話すこと・聞くこと」に関する具体的な指針である。生徒がこのような意識をもち、「場面や状況を考えた」(場に応じた)話し方ならびに聞き方を習得し、実践することができるよう指導を展開すれば、自ずと生徒の「伝え合う力」は育まれると考える。

④「話すこと・聞くこと」の言語活動

本研究では、前述の「伝え合うかたち」[A][B]の中から、以下に記した活動を、「話すこと・聞くこと」を高める言語活動として、積極的に国語科の授業に取り入れた。

ア「対話」

二人が向かい合って、ある事柄について話すこと。

イ「質疑応答」

疑問点を問いただしたり、質問に対して答えたりすること。

ウ「インタビュー」

公式に面会し、相手から話を聞き出すこと。

エ「話し合い」

数人あるいは学級全体で、あるテーマにつ

いて自由に自分の考えや思いを述べ合い、聞き合うこと。数人で行うときは「グループ・ディスカッション」という呼び名もある。また、その場にいる全員が自由に話し合う形式で、人数やルールなどの特別な規定がない「フリー・トーキング」も「話合い」である。他にも「ブレイン・ストーミング」は一つのテーマについて各自が他を批判することなく、自由に意見を引き出す「話合い」の方法である。「バズ・セッション」は、グループ内で司会者・記録者・発言者・質問者を決め討論する方法で、「バズ」とは蜂がぶんぶんとしてる羽音のことである。

オ「会話」

二人もしくはそれ以上の主体が、主として言語の発声によって共通の話題をやりとりするコミュニケーションや、あるいは話をする行為全般（内容・様式など）のこと。

カ「挨拶」

人と会った時にとりかわす儀礼的な動作や言葉・応対など。

キ「スピーチ」

自分の考えた事、感じた事、ふと思った事を自分の言葉で、やさしい言葉で、聞き手に論理的に話しかけること。

ク「発表」

自分の考えや調査の結果、また事態の経緯・経過についての情報を広く知らせること。

ケ「説明」

どういうものであるか、相手に分かるように順序を立てて言うこと。

コ「アナウンス」

主に放送や拡声器使い、時には文書によって、ニュースや案内などの情報を知らせること。

⑤「話すこと・聞くこと」の効果的な指導法

例えば外国語を習得する場合、短期間で詰め込んで言葉を覚える方法よりも、継続して繰り返し言葉を覚える方法が効果的である。同じく数学の計算問題も、易しい問題から始め、段階

を踏んで繰り返し問題を解くと計算力がつく。スポーツ全般における技術力向上の練習も同様である。「話すこと・聞くこと」の学習指導も、このように継続して繰り返し行う方法が効果的だと考える。

2 研究内容 2

(1)「話すこと・聞くこと」に関する生徒の実態把握

① 実態調査アンケート

ア 調査目的

生徒の国語に対する意識ならびに「話すこと・聞くこと」に関する実態調査を行い、本研究の資料に役立てる。

イ 調査方法

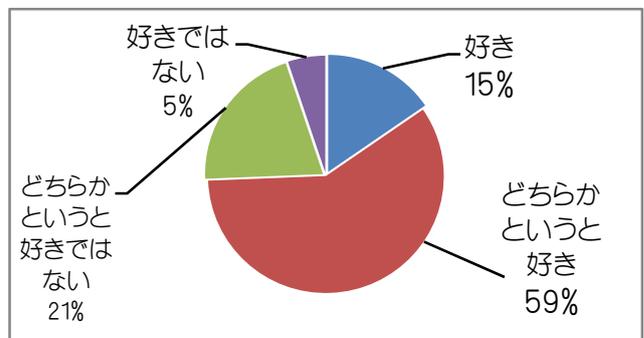
(ア)調査対象：宮里中学校 1年 6組

(男子 19名、女子 20名、計 39名)

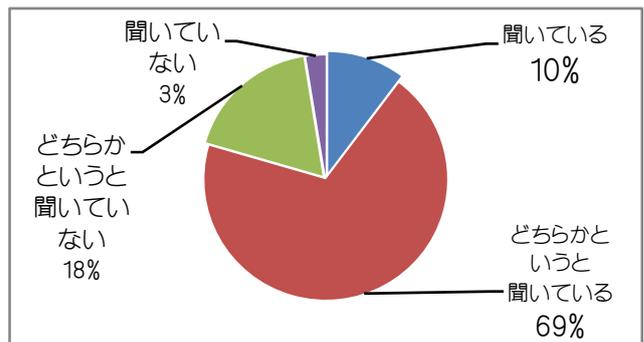
(イ)調査日：平成 20年 11月 17日(月)

(ウ)回収率：100%

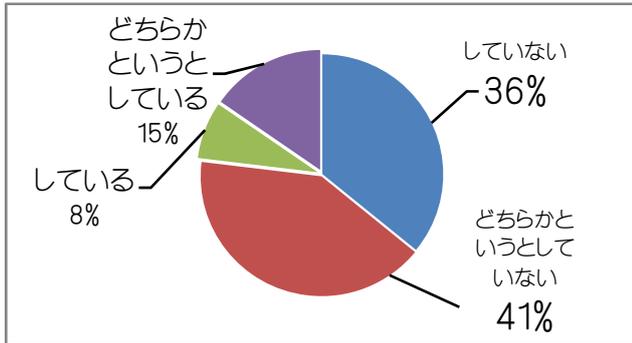
質問 1 あなたは国語の教科は好きですか。



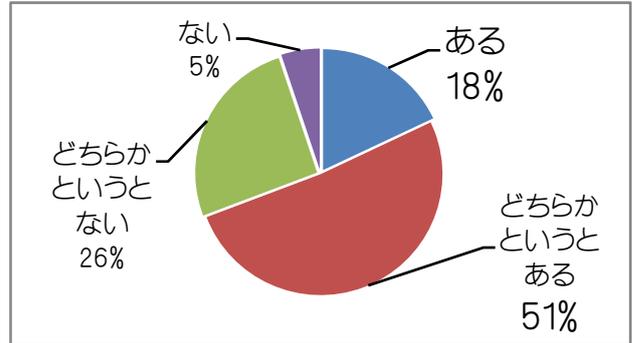
質問 2 あなたは授業中、先生の話真剣に聞いていますか。



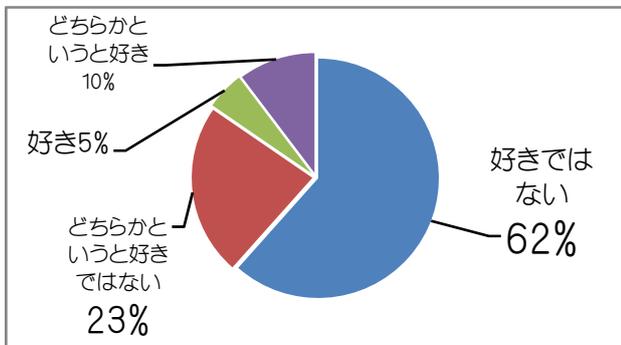
質問3 あなたは授業中、自分の意見や考えを発言していますか。



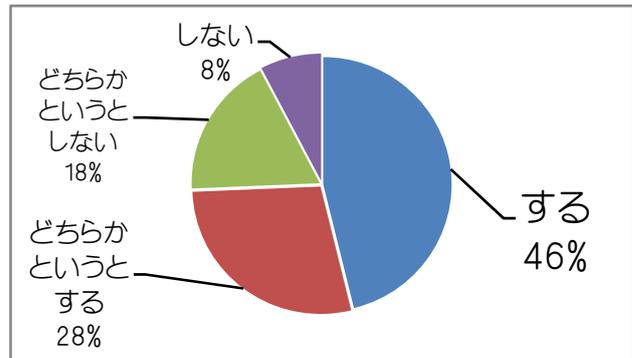
質問5 あなたは自分の言いたいことが、相手に伝わらない時がありますか。



質問4 あなたは人前に出て、自分の考えを発表することは好きですか。



質問6 普段、人と話をしている時、相手が何を言っているのか分からない時は、質問したり、もう一度聞いたりしますか。



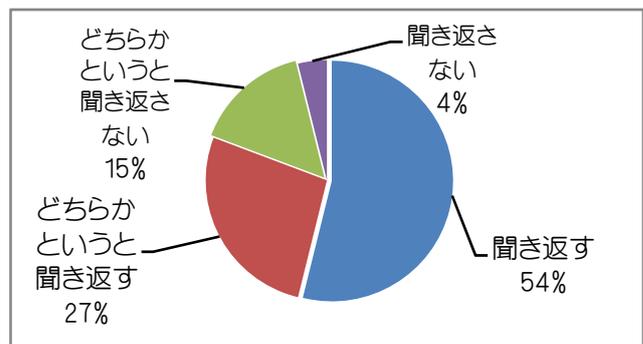
【質問1～4の考察】

最初に国語の授業において、普段どのような意識で授業を受けているかをきいた。生徒の多くは国語が好きだ、と関心を持ち（質問1で74%）、同じように多くの生徒が、教師の話真剣に聞いていると答えた（質問2で79%）。

次に「話すこと・聞くこと」の「話すこと」に関しては、授業中の発言や人前での発表などを、苦手になっている生徒が多いという結果が出た（質問3で77%、質問4で85%）。聞く態度は良いが、自分の考えを発言・発表するとなると、尻込みをしてしまう。これまでの授業を振り返ってみると、教師の発問に対し、生徒の発言は少なかった。そのような中で、授業中発言をしたり（質問3で23%）、人前で発表したりすることが好きだと答えた生徒（質問4で15%）がいた。その生徒たちを活かしながら、より多くの生徒が発言できるよう、生徒のつぶやきをとらえて発言をつなげる等工夫の必要がある。

【質問5・6の考察】

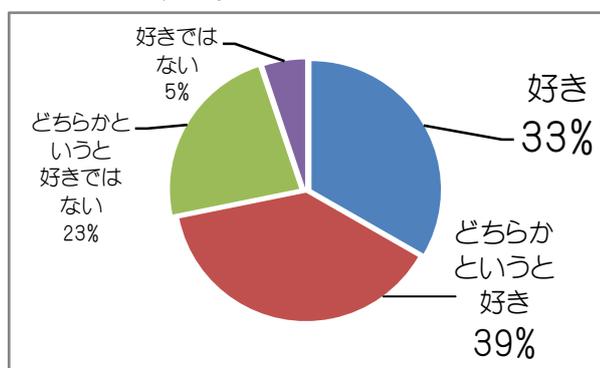
質問5の結果、自分の話が伝わらないと感じている生徒が69%、質問6では、相手の言っていることが分からない時、聞き返したりするという生徒が72%という結果が出た。この2つの項目が約7割と近い数値になっている。また、自分の話が「伝わらない」と感じている生徒について「伝える努力」をしているかを見ると、以下の通りの結果が出た。



約8割の生徒が「聞き返す」「どちらかという

と聞き返す」と答え、「伝える努力」をしているが、「聞き返さない」「どちらかという聞き返さない」と答えた生徒が19%おり、「自分の言いたいこと」をきちんと話す方法や、自分の話が伝わらない時の対処法等「伝え合う場」をより多く設定し、指導を工夫する必要がある。さらに、「相手の立場や考えを尊重し話したり聞いたりする」ということも意識させて指導する必要がある。

質問7 あなたはグループで話し合うことは好きですか。



【質問7の考察】

アンケート結果を見ると、発言や発表は苦手だが、「話し合い」という活動は7割以上の生徒が「好き」「どちらかという好き」と前向きに答えている。これまで、特別活動の時間ではあったが、グループの話し合いの場面があり、生徒たちはフリー・トーキングで楽しく活動する様子が見られた。前述の研究内容1 ③「話すこと・聞くこと」の言語活動 イ「話し合い」を授業に取り入れることにより、人前での発言・発表に自信を持たせることができるのではないかと考えた。そのためには、「話し合い」活動を活発にする工夫が必要である。

【全体の考察】

アンケートを通して、「話すこと・聞くこと」に関する生徒の実態が把握できたことは、本研究のテーマに迫るにあたり、とても有効な資料になった。そして、アンケートの結果をふまえ、検証授業の指導計画に役立てることもできた。

さらに、生徒一人ひとりに、「言葉の大切さ」や「授業態度」、「話し方・聞き方」などを強く意識させることができ、生徒の学習に対する意欲の高まりにつながった。

また、アンケートを通して、以下の事項の必要性を感じた。

- 伝え合う場の設定
- 話し方や聞き方の技能の定着
- 発言・発表ができる雰囲気づくり
- 苦手意識を克服させる工夫

とりわけ「伝え合う場の設定」は最も重要と言える。教師がどんなに工夫した学習指導を行おうとも、その発揮する場の設定が不十分だと、十分な成果が表れないと考えるからだ。

「発言・発表ができる雰囲気づくり」も同様に、「伝え合う場の設定」に関わりが深いので重要な事項だと言える。

(2) 「話すこと・聞くこと」を中心とした指導計画の作成

①「モジュール授業」を取り入れる ア「モジュール」について

モジュールとは、もともと建築物の基準寸法や割合測定の単位として用いられているものである。これを教育に適用した場合、それは学習を成立させるさまざまな教育条件、例えば「学習内容」「学習時間」「学習空間(学習場所)」「学習集団」等の最小単位を意味するものとなる。それらを柔軟に組み合わせ、学習活動における生徒一人ひとりのレベルに応じて、学習効率を高め、個別化・個性化を図っていくという発想がモジュール授業の基本的な考え方である。

イ「モジュール授業」のねらい

毎回10分程度「話すこと・聞くこと」の授業をすることにより、「学習習慣の定着化」ならびに「確かな学力の向上」を図り、「伝え合う力」を育むことができる。これが「モジュール授業」のねらいである。

「話すこと・聞くこと」の指導をモジュールで継続的に実施することは、次のような教科の特性によるものである。言葉の学習（言語活動）は、短い時間でも毎日ふれることで学習効率が上がることが考えられる。モジュールで10分の授業を組み入れ、毎回授業をすることは、学力の向上を図ることに有効である。さらに「学習の習慣化」にもつながり、学力の定着を高めることになると思う。

ウ「モジュール授業」の方法

通常の授業は50分を1単位時間としている。学習指導要領には、内容や年間の授業時数が定められ、それに合わせて単元・教材の時数が配分されている。そして教科書には学習指導要領に則って、単元・教材が領域ごとに掲載されている。その中には当然「話すこと・聞くこと」の単元・教材もある。例えばその中の一つの教材が、3時間と配分されていたら、通常、国語の授業は週に3～4時間あるので、わずか四日以内で「話すこと・聞くこと」の授業を展開することになる。このように50分の授業を短い期間に数回行うより、50分の授業を10分×5回に分割し（授業の始めに10分設定）継続して、繰り返し指導するやり方が、時間をかけて継続してできるので、本研究の「話すこと・聞くこと」の学習に適していると思う。

②新しい学習指導要領とのかかわり

新しい学習指導要領「第1章 総則 第3の3」は、次のように定めている。

3 各教科のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して、適切に定めるものとする。

いわゆる「1単位時間の弾力的運用」といわれている事項である。文中、「各教科等の年間授業時数を確保し」という記述がある。それに関連して、新しい学習指導要領「国語 第3の1」に目を向けると、

各学年の内容の「A話すこと・B聞くこと」も指導に担当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では年間10～20単位時間程度とすること。

とあり、「話すこと・聞くこと」の指導に担当する授業時数について示している。これは「話すこと・聞くこと」の指導の重要性を考えて、指導計画に適切に位置づけ、確実に実施するよう示したものである。「話すこと・聞くこと」を指導するときは、あらかじめ定められた授業時数というものをきちんと整理して、綿密な指導計画を作成しなければならない。そして、「話すこと・聞くこと」の指導計画の作成に当たっては、次の三つの方法がある。

- ・ある程度まとまった時間を学期ごとに配分して計画する方法
- ・年間を通して週時間を割り当てて計画する方法
- ・上記の両方を組み合わせて計画する方法

再び「総則 第3の3」に目を向けると「生徒の発達段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して」という記述がある。それに関連して、新しい学習指導要領解説「総則編」では次のように明記されている。

これは、例えば、実験や観察を伴う理科の授業を60分で行うことや計算や漢字の反復学習を10分程度の短い時間を活用して行うことなど、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動によっては授業時間の区切り方を変えた方が効果的な場合もあることを考慮したものである。

と具体的に述べている。さらに次のような例も考えられる。毎朝15分の学習時間を設定し、週に3回計算ドリルや新出漢字の学習を行って、授業時数を1時間とカウントすることや、毎朝15分の授業を1時間目に組み込んで、65分の授業を行う、という方法である。新しい学習指導要領ではこれらが実施できるようになった。

次に、これらの方法で、年間授業時数に算入

できるか、である。現行の学習指導要領では、「短い時間を単位として特定の教科を指導する場合」は、年間授業時数に含めることはできなかった。しかし、新しい学習指導要領解説「総則編」では次のように明記されている。

10 分間程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業時数に含めることができる。

「短い時間を単位として特定の教科を指導する場合」は、「指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているとき」という条件付きで、実施した授業の時間を、教科の年間授業時数に含めることができるようになった。教科担任制である中学校で、例えば10分程度の短い時間を単位として、計算や漢字、英単語等の反復学習を行う場合、その教科担任以外の教師が立ち会うことが考えられるが、このような場合も年間授業時数に算入できるようになった。

③「モジュール授業」の指導計画

本研究では、「話すこと・聞くこと」という領域の特性と、前述の「1 単位時間の弾力的運用」に着目し、国語科において「モジュール授業指導計画」を作成した。これは、モジュール授業が「伝え合う力」を育む学習指導に、適応していると判断したからである。

次ページの表 1 は、国語科 1 年の年間指導計画表である。太線で囲ってある単元は「話すこと・聞くこと」の領域である。これらの単元は表に示してあるように 3 つ設定され、それぞれの授業が行われるのは 5, 10, 2 月である。これまでの指導は、限られた月に断続的に行っていた。しかし、短い期間では、「話すこと・聞くこと」の十分な指導はできない。そこで、「話すこと・聞くこと」の指導を「モジュール授業」

で計画した。

70 ページの表 2～4 は「モジュール授業」の指導計画例である。表 2 は、2 単位時間 100 分を 10 分ずつ 10 回に分け、「モジュール授業」にしたものである。授業の開始 10 分程度を、毎時間、「話すこと・聞くこと」の学習として位置づける。「発声のしかた」や「基本」が組み込まれ、対話から話し合い、そして最後はスピーチというように、「話すこと・聞くこと」の段階をふまえた指導計画である。

表 3 は 1 単位時間 50 分を 10 分ずつ 5 回に分けた「モジュール授業」の指導計画である。ゲームを取り入れ、生徒が楽しみながら「伝え合う力」を高めていく方法である。

表 4 は、表 3 と同じような分け方だが、生徒の「伝え合う力」が高まった段階で行う「モジュール授業」の指導計画である。

どの例も最後の授業は「単元のまとめ」を入れ、新しい学習指導要領に記された「指導の成果の把握と活用等を責任を持って行う」ことに則った計画である。

④教科の枠を超えて

学校教育全体に目を向けてみると、新しい指導要領の「総則」には、

各教科の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習指導を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

と記され、全教科を貫く学力として「言語活動の充実」が求められているのが特徴である。

全ての教育活動に「話すこと・聞くこと」にかかわる「言語活動」がある。これまで国語科の授業で取り扱った「言語活動」を、国語科だけでなく、全ての教科において充実させることにより、子ども達一人ひとりの「伝え合う力」を高めることが重要になってきている。

表1 国語科1学年 年間指導計画表

月	単元名	教材名	学習指導要領の内容				時数
			A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと	言語事項	
4月 (10)	1 新しい世界へ	野原はうたう 〔声を届ける〕 にじの見える橋			オ ア, エ	(1)ア,2,3年 (1)ア	3 4
		[言語①]話し言葉と書き言葉				(1)ア,カ 2,3年 (1)ア	2
		[漢字①]漢字の組み立てと部首				(2)ア	1
		発見したことを伝えよう スピーチの会を開く	ア,イ,エ			(1)ア	4
5月 (10)	2 視野を広げる	ちょっと立ち止まって クジラたちの声			オ イ,ウ,エ,オ	(1)エ (1)イ,ウ	4 4
		[文法の広場①]言葉の単位 [漢字②]混同しやすい漢字				(1)エ,オ (2)ア	2 1
6月 (13)	書く	わかりやすく説明しよう 情報を選ぶ		ア,イ,ウ, エ			6
		豊かな言葉	光と風からもらった贈り物			ア,オ,カ (1)ア,イ,ウ	3
7月 (6)	本の世界を広げよう	さつき 読書案内 読書活動 読書記録を書く		イ,ウ,エ	ア,エ カ オ,カ		3 2
9月 (13)	3 心の歩み	麦わら帽子 大人になれなかった弟たちに…			ア,エ エ,オ	(1)ウ (1)イ,ウ,エ	3 4
		手紙を書こう 伝え方を考える		イ,エ		(1)エ,カ	3
		[言語②]漢語・和語・外来語 [漢字③]漢字四字の熟語				(1)ウ (2)ア	2 1
		話し合ってみよう グループ・ディスカッション	ア,ウ,エ				4
10月 (13)	4 古典との 出会い	音読を楽しもう いろは歌 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から― 今に生きる言葉			オ イ,オ イ,オ,カ	(1)ア,ウ	2 6 3
11月 (11)	5 真実を語る	[漢字④]漢字の音訓 未来をひらく微生物				(1)ウ (2)ア (1)ウ,エ	1 5
		調べたことを正確に伝えよう レポートにまとめる		ア,イ,ウ, エ,オ			6
12月 (9)	本の世界を広げよう	[文法の広場②]文の組み立て [漢字⑤]辞典を活用しよう				(1)エ,オ 2,3年 (1)オ (1)イ,ウ (2)ア	2 1
		江戸からのメッセージ ―今に生かしたい江戸の知恵 読書案内 読書活動 図書館を利用する			エ,オ カ カ	(1)ウ	3
1月 (8)	6 自分を見つめ る	少年の日の思い出 体験を伝え合おう 心に残るあの思い			ア,エ,オ	(1)イ,ウ	6 6
2月 (11)	7 生活と言葉	[文法の広場③] 指示する語句と接続する語句 [漢字⑥]漢字の成り立ちと意味				(1)エ,オ (2)ア	3 1
		言葉を探検する 調べたことを発表する	ア,イ,ウ,エ	ア,イ,ウ, エ,オ		(1)ア,イ,ウ,カ	8
3月 (7)		大仏様は「にっこり」しています 胸の底の人と言葉たち			イ,オ,カ ア,オ	(1)ウ (1)イ,ウ	3 3
巻末 教材	文法	①言葉の単位 ②文の組み立て ③指示する語句と接続する語句				(1)エ,オ 2,3年 (1)オ	3
	漢字に親しもう	小学校六年生で学習した漢字				(2)イ	1

表2 モジュール授業の例1

単時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(分)	発声のしかた	聞き方の基本	話し方の基本	対話(1)	対話(2)	話合い(1)	話合い(2)	スピーチ練習(1)	スピーチ練習(2)	まとめ
10	上記のモジュール授業が終了後、通常の国語の授業を40分行う。									
20										
30										
40										
50										

表3 モジュール授業の例2

単時	1	2	3	4	5
(分)	全体でゲーム	1対1でゲーム	4人で言葉ゲーム	発表会	まとめ
10	上記のモジュール授業が終了後、通常の国語の授業を40分行う。				
20					
30					
40					
50					

表4 モジュール授業の例3

単時	1	2	3	4	5
(分)	グループで話合い	全体で話合い	全体で発表会	全体で発表会	まとめ
10	上記のモジュール授業終了後、通常の国語の授業を40分行う。				
20					
30					
40					
50					

⑤「話すこと」に関する指導

相手や目的、状況に応じて分かりやすく話すことができるようにするには、話すための準備段階で指導することと、実際に話をする段階で指導することの2つの指導が大事である。

話すための準備段階では、第1学年では話の構成を考えること、第2学年では論理的な構成や展開を考えること、第3学年では説得力のある話をする、ことが大事である。

実際に話をする段階では、第1学年では相手の反応をふまえながら話すこと、第2学年では異なる立場や考えを想定して話すこと、第3学年では場の状況や相手の様子に応じて話をする、ことが大事である。

話し方については、第1学年では、言葉遣いなどについての知識を生かすこと、第2学年では資料や機器などを効果的に活用すること、第3学年では敬語を適切に使うこと、が大事である。

⑥「聞くこと」に関する指導

聞き取ることについては、第1学年では質問しながら聞き取ること、第2学年では話の論理的な構成や展開などに注意して聞き取ること、

第3学年では聞き取った内容や表現の仕方を評価すること、が大事である。

聞き取ったことを自分の考えに生かすことについては、第1学年では共通点や相違点を整理すること、第2学年では自分の考えと比較すること、第3学年では自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること、が大事である。

⑦「話し合うこと」に関する指導

「話合い」は、話すことと聞くことが交互に行われるところにその特徴がある。それぞれの生徒が話し手でもあり聞き手でもある言語活動であり、また、話すことと聞くことが同時に展開する言語活動である。目的や場に応じて話し合うことができるようにするためには、前述した話すことに関する指導と、聞くことに関する指導との密接な関連を図って指導しなければならない。

「話合い」を効果的に進めるためには、第1学年では「話合い」の話題や方向をとらえて話し合うこと、第2学年では「話合い」の展開や方向をとらえて話し合うこと、第3学年では「話合い」の進行の仕方を工夫して話し合うこと、

の指導が大事である。また、「話し合い」を通じて自他の考えを豊かなものにするためには、第1学年では「話し合い」を通じて自分の考えをまとめること、第2学年では「話し合い」を通じて自分の考えを広げること、第3学年では「話し合い」を通じて課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと、の指導が大事である。

⑧「話すこと・聞くこと」の言語活動例

下の表は、国語科の各学年における「話すこと・聞くこと」の言語活動例である。

ア、「話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動」
イ、「お互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動」があり、それぞれ学年ごとに示した。

第1学年	第2学年	第3学年
ア、日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	ア、調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。	ア、時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
イ、日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。	イ、社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。	イ、社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

3 研究内容3

(1) 「伝え合う力」を育成する授業の工夫

① 言葉で伝え合う場の設定

国語科の授業において、言葉で伝え合う場を四つのパターンで設定した。

一つ目は「教師対全生徒」である。一斉授業の場で、教師が質問・発問を行い、生徒がそれに答えるという「伝え合う場」の設定である。

二つ目は「生徒一人対生徒一人」である。これは二人がお互いに顔を向き合わせて行う「対話」で、「伝え合う場」の設定である。

三つ目は「生徒対生徒」である。これは四人ずつグループを作り、グループ内でお互いの考えや意見を話したり聞いたりする「伝え合う場」の設定である。

四つ目は「生徒一人対その他の生徒」である。これは生徒一人が前へ出てスピーチを行い、他の生徒がそれを聞く。また、スピーチを聞いて、感想や意見、質問等を述べ、発表者がそれに答えるという「伝え合う場」である。

どれも共通することは、生徒が自分の考えなどを、恥ずかしがらずに発言できる雰囲気が必要不可欠であるということである。すなわち、「言葉で伝え合う場の設定」とは、生徒が間違いを恐れずに堂々と話をしたり、相手の話を正確に聞いたりすることができる場を、設定することである。

② 授業の工夫

ア ペアおよびグループ作り

最初に「仲が良い人」同士のペアをつくる。このペアで「対話」の活動を行う。次にそのペアにもう一組のペアを合わせて、計四人のグループを作る。この人数で「話し合い」の活動を行う。組み合わせ方は生徒の希望をとるが、最終的には教師が調整する。

机の並び方にはコの字型、ロの字型、集合型等があるが、四人だと机を並べやすくお互いの距離も近い。「話し合い」の活動には四人が適していると考えられる。

イ 時間を計る

モジュール授業は10分で行うので、生徒が活動する場合、タイマーで30秒、1分、というように時間を計る。生徒たちに良い意味の緊張感が生まれ、集中して活動をすることができる。

ウ 教師の姿勢

「伝え合う力」を育むためには、教師も「言葉遣い」に十分気をつけ、生徒に気を配り、場に応じた話し方や聞き方をすることが大事である。また、生徒の話を最後まで聞くこと、生徒の「つぶやき」に耳を傾けること、生徒

の話が詰まったときは「それから…」と促すこと、生徒が間違っても「よく発表した」と褒めること、上手な発言やよい発表には「すごい」と賞賛することも大事である。

エ 目標を持たせる

「発表名人になろう」をスローガンに掲げ、生徒が「発表名人になりたい」と目標を持つことで、学習意欲が高まり、言語活動が活発になり、授業を有意義に受けることができる。10級から始まり、級ごとのワークで合格したら進級できる。1級に合格したら「名人」になる。(表5、6参照)

表5は「話すこと」の領域における級別表である。基礎となる言語技能、適切な表現能力、課題に合った話し方等の目標事項を級ごとに示している。

表6は「聞くこと」の領域における級別表である。基礎となる言語技能、適切な表現能力、正確な聞き方、伝え合う能力、目的や意図に応じた情報の発信等の目標事項を、級ごとに示している。

③ 教材の工夫

ア 正しく発声するための教材

音声言語学の観点から、日本語の五つの母音を理解させ、母音を正確に発音する練習を行う。ペアを組ませ、資料1に掲載された「口の形」を参考にし、お互いの口元を確認しながら発声する。

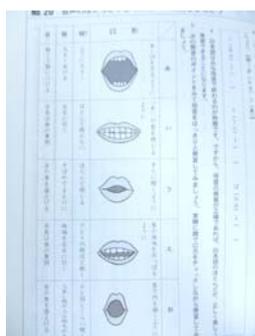
イ 学習を助ける教材

教科書出版会社のウェブサイトに掲載されている教材や、学習指導書の付録CDなどには、「話すこと・聞くこと」の学習に役に立つものがあり、伝え合う力を育む一助になる。(資料2)

ウ ワークシートの工夫

限られた授業時間の中で、学習のまとめを実施するのは難しい。そこで短時間で記入できるワークシートを工夫する。大きさはA5版にし、文章も読みやすく、簡潔にする。生徒は授業を振り返り、その日の学習をまとめ、重要な事柄を理解して次の学習に臨むことができる。(資料3)

資料1 口の形



資料2 教科書会社のウェブサイト



資料3 ワークシートの例

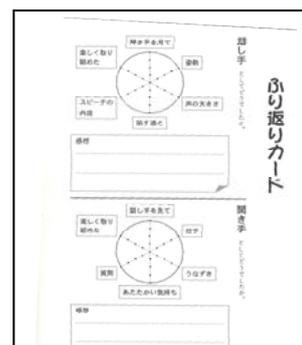


表5 「話すこと」の級別表

級	目 標 事 項
10	姿勢・口形・話す速度・音量に気をつけ聞き手を意識して話すことができる。
9	言葉の調子・間のとり方に注意して話すことができる。
8	的確に話す内容を選び、相手に分かるように話すことができる。
7	論理的な話し方を身につけ、相手に理解してもらえるような話し方ができる。

6	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分けを理解し、話すことができる。
5	全体と部分の関係に注意して、話すことができる。
4	事実と意見の関係に注意して、話すことができる。
3	その場にふさわしい話題を選定し、聞き手を意識して話すことができる。
2	体験したことについて、事柄の順序を考え、相手に分かるように発表ができる。
1	話題や方向をとらえ、ジェスチャーを交え、制限時間内に発表することができる。

表6 「聞くこと」の級別表

級	目 標 事 項
10	姿勢・表情・言葉の調子・間のとり方に気をつけ話し手を意識して聞くことができる。
9	うなずいたり、相槌を打ったりして聞くことができる。
8	話し手の意図を考えて、話の内容を聞き取ることができる。
7	身近な事柄について話し合った内容を聞き取り、自分の意見に生かすことができる。
6	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分けを理解し、聞くことができる。
5	全体と部分の関係に注意して、聞き取ることができる。
4	事実と意見の関係に注意して、聞き取ることができる。
3	話し手の意図を考え、要点をメモしながら、話を最後まで聞くことができる。
2	なぜその話題を選定したのかを聞き手として考え、自分の意見の発表に生かすことができる。
1	話し手の意図をよく考え、要点を絞って聞き、メモに取り感想をまとめることができる。

Ⅶ 指導の実際

1 指導計画

本研究の検証授業は、69ページ表1「国語科1学年 年間授業計画表」の「話すこと・聞くこと」の教材「発見したことを伝えよう」と「話し合って考えよう」の二つを合わせ、「話し合って伝えよう」と題し、生徒たち一人ひとりの「伝え合う力」を育むことのテーマに迫った。そして、検証授業を下の表7 モジュール授業指導計画表のように計画した。上記の教材を4単位時間扱いと設定し、最初の50分を10分ごとに5回に分けて行い、⑥は「中間のまとめ」として50分の授業を行った。さらに、10分ごとに5回、行ったが、検証授業⑩と⑫の間に「まとめ」として、1単位時間の授業を行った。なお、⑫は、単元の最後の授業に位置づけ、学習を振り返る時間とした。

表8は検証授業の授業内容を示した指導計画表である。

表7 モジュール授業指導計画表

単時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
(分)	検 証 授 業 ①	検 証 授 業 ②	検 証 授 業 ③	検 証 授 業 ④	検 証 授 業 ⑤	検 証 授 業 ⑥	検 証 授 業 ⑦	検 証 授 業 ⑧	検 証 授 業 ⑨	検 証 授 業 ⑩	検 証 授 業 ⑪	検 証 授 業 ⑫	
10						中間のまとめ						まとめ	
20	上記のモジュール授業が終了後、通常の国語の授業を40分行う。						上記のモジュール授業が終了後、通常の国語の授業を40分行う。						終了後、通常の授業を40分行う。
30													
40													
50													

表 8 検証授業指導計画表

●「話すこと・聞くこと」の言語活動

月日	曜	校時	授 業 内 容	備 考
11/17	月	4校時	検証授業①『発声練習』 ●授業の始めに、発声の練習を行い、言語活動をスムーズにする。「話すこと・聞くこと」	資料 1
11/18	火	2校時	検証授業②『辞書引き競争』 ●教師からの問題を集中して聞き、言葉の意味を調べる。「聞くこと」	国語辞典 漢和辞典
11/19	水	5校時	検証授業③『対話』 ●ペアを作り、一人が質問し、もう一人が答える。「話すこと・聞くこと」	学習カード
11/20	木	5校時	検証授業④『グループ活動』 ●言葉ゲームをしながら、実況のアナウンスを行う。緊張感をほぐし、お互いが活動しやすい雰囲気を作る。「話すこと」	ワークシート CDラジカセ
11/21	金	2校時	検証授業⑤『会話』 ●4人のグループを作り、テーマに沿った話し合いを行う。「話すこと・聞くこと」	学習カード
11/25	火	5校時	中間まとめの授業（検証授業⑥） これまで実践してきた言語活動を振り返り、「話す力・聞く力」を向上させる	ワークシート 評価用紙
11/27	木	5校時	検証授業⑦『話し合い』 ●相手によって話すときの態度や言葉遣いが違うことに気づき、場面ごとにシミュレーションをする。「話すこと・聞くこと」	学習カード
11/28	金	2校時	検証授業⑧『スピーチ』 ●二人一組でスピーチを行い、人前に出て発表する際の緊張をほぐし、発表に自信を持つ。「話すこと・聞くこと」	学習カード
12/1	月	4校時	検証授業⑨『伝え合う』 ●質問の仕方を練習する。「話すこと・聞くこと」	学習カード
〃	月	5校時	検証授業⑩『伝え合う』 ●質問の答え方を練習する。「話すこと・聞くこと」	学習カード
12/2	火	2校時	まとめの授業（検証授業⑪） ●これまでの授業を踏まえて、「話し合い」「スピーチ」等の言語活動を行う。「話すこと・聞くこと」	ワークシート 評価用紙
12/3	水	1校時	検証授業⑫ 検証授業で行ったこれまでの学習をふりかえり、「話すこと・聞くこと」の到達度を知る。	チェックシート

2 実践事例

(1) 実践例1 11月17日(月) 4校時

- ① 教材名 「発声練習」
- ② ねらい 授業の始めに、声を出して発声の練習を行い、言語活動をスムーズにし「伝え合う力」を育む
- ③ 活動の様子

写真



【授業の展開】

ペアを作り、お互いに顔を見合い、声を出す練習である。一方が声を出し、もう一方が口の形や声の大きさをチェックする。終了したら声を出す側と聞く側が交替する。この練習は検証授業の全てにおいて実践した。最初、生徒は恥ずかしがって、少し戸惑う場面があった。教師が「発声のメカニズム」「母音の大切さ」等を説明すると、生徒たちは納得して声を出すようになった。また、初めの頃は教師のリードが必要だったが、だんだん慣れてくると、生徒同士テンポよく短時間で発声練習ができるようになった。

【伝え合う力との関連】

この発声練習は、「検証授業における言語活動の基礎」ととらえ、後に行ったさまざまな言語活動(特に声を出す活動)をスムーズに実践することができた。これは検証授業以外でも、国語科に限らず、道徳や特別活動、他教科で授業の始めに行えば効果的である。

(2) 実践例2 11月19日(水) 5校時

- ① 教材名 「なりきって対話をしよう」
- ② ねらい 一対一で質問をし合い、相手に分かりやすく聞いたり、答えたりして伝え合う力を育ませる。
- ③ 活動の様子

写真



【授業の展開】

最初に行ったのが「自己紹介への質問」である。一人が自分の名前を言ったあと、一方が「どこに住んでいますか」「家族は何人ですか」と聞いて、一方がそれに答えるという簡単な言語活動である。この活動を1分ずつ交互に行った。次に、自分が「ある物」になりきって「自己紹介」を行った。例えば「ノート」「教科書」「シャーペン」のような身近な物や「雲」「自転車」「鳥」のような動く物などになりきり、質問を受けるという方法である。最初からなりきった物を言わずに、なりきった物は何かを当てるクイズ形式で行った。また、質問事項は5つまでと制限をしたり、難しかったらヒントを出したりして、生徒たちの段階に合わせてルールを決めると効果的である。

【伝え合う力との関連】

簡単な受け答えにより、話す・聞くが交互に繰り返される言語活動である。あらかじめ決められた質問事項があり、それを何度も質疑応答することにより、質問の仕方やその受け答え方が自然と身に付き、「伝え合う力」を育むことができた。また、クイズ形式で質疑応答をする際、質問者がなかなか答えを導き出せない場合に「相手の立場や考えを思いやって」ヒントを出す場を設定したことは、「伝え合う力」を育む大きな成果となった。

(3) 実践例3 11月21日(金) 2校時

- ① 教材名 「会話をしよう」
- ② ねらい グループで質問をし合い、相手に分かりやすいように聞いたり、答えたりして「伝え合う力」を育む。
- ③ 活動の様子

【授業の展開】

最初にグループ内で順番を決め、「1人対複数」の形を設定した。発表者(1人)が「最近気になっている事」と題して話をし、あとの人はそれを聞いて質問に備えた。話が終わったら、聞いている人から順番に「それはどうしてですか」「なぜそれをやったのですか」等の「理由」を質問させた。答えが「はい」「いいえ」にならないようにするためである。このとき、他の人と同じ質問をしてはいけない。そして、発表者はそれに答えるが、相手に分かるように答えなければならない。また、説明が十分でないときは、グループ全員で「分かりやすい答え方」を考えさせた。

【伝え合う力との関連】

この実践は、「発表する力」を鍛えると同時に「質問する力」も高めることもできる。また、グループ全員で「分かりやすい答え方」を考えることによって、次の段階である「話し合い」に繋がられる。そして何度か繰り返して練習すると、徐々に「伝え合う力」を育むことができた。

【言語活動資料例】

グループリーダーの声を聞かす
グループのメンバーひとりひとりの顔を見ながら話す。
「Yes, it's a bit light.」
相手の話「あじさい」になるのはどうですか、
相手の話「あじさい」
グループのメンバー「はい」
「アハをしよう。発表者さん」
「もうちょっと言ったほうがいいよ」「聞か
せて」「はい」
「どうですか?○○さん」「ほかのメンバーに
聞かす」
「質問をしてみよう。○○さん、それが好きに
なるかどうかは何ですか?」「質問」
「ほかのメンバー」「○○さん、質問してくだ
さい」
スローモーション
(発表者の横には)「
これより○グループの○○さんがスピー
チします。○○さん、お願いします。(発表
者) それでは、質問を上げてください。質問があ
る人は手をあげてください。」
(全体を見わたし、ひとりづつ質問)○○
さん
(質問の受け答えを聞き、発表者だけがまっ
すましく聞いて)「
これでスピーチを終わります、礼を言っ
ていただきます」



(4) 実践例4 11月27日(木) 5校時

- ① 教材名 「相手をかえて話す」
- ② ねらい 相手によって話すときの態度や言葉遣いが違うことに気づき、場面ごとにシミュレーションをすることで、「伝え合う力」を育む。
- ③ 活動の様子

【授業の展開】

最初にグループ内で二人ずつペアを作り、質問者と回答者に分かれた。「人物」と「話題」のカードを用意し、裏にして重ね、質問者は「話題」のカードを、回答者は「人物」のカードをそれぞれ引き、質問者は相手の「人物」に合わせて、「話題」の事柄を質問した。回答者は、それに対して自分が引いた「人物」になりきって答えた。言い終わったら、質問者と回答者を交代し、新たにカードを引いて繰り返し行った。



【伝え合う力との関連】

この実践は、「話すこと・聞くこと」の言語活動の中でも、目上の人に対する態度や、場に応じた言葉遣いを学習できるものである。「人物」のカードには「親」「自分の兄弟姉妹」のような身近な人の他に「初対面の人」「校長先生」等のカードも含まれ、言語活動の範囲が広くなり、「伝え合う力」をより育むことができた。

【言語活動資料例】

・「人物」のカード例

・「話題」のカード例



(5) 実践例 5 11月28日(金) 2校時

- ① 教材名 「ペアスピーチ」
- ② ねらい 二人一組でスピーチを行い、人前を出て発表する際の緊張をほぐし、発表に自信を持ち、「伝え合う力」を育む。

③ 活動の様子

【授業の展開】

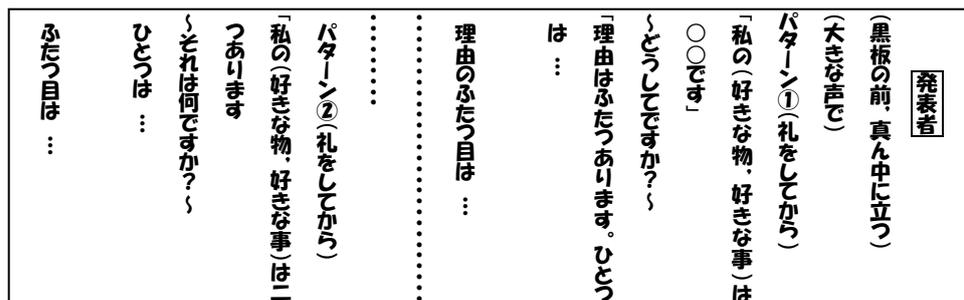
「一分間スピーチ」を二人で行った。発表のしかたは、生徒の到達度によって次の三段階に分けた。まず到達度が10～8級の生徒は「聞きやすい発表」を心がけ、二人で声をそろえてスピーチをした。この段階では原稿を見ても良い。次に到達度が7級～4級の生徒は「分かりやすい発表」を心がけ、二人で交互にスピーチを行った。この段階では原稿を時々見ても良い。次に到達度が3級～1級の生徒は「説得力がある発表」を心がけ、一人が発表したら、もう一人がより詳しく説明した。この段階では原稿を見てはいけない。



【伝え合う力との関連】

この実践は、「話すこと・聞くこと」の言語活動の中でも、生徒の段階に応じて、発表の形式を変える、という点で高いレベルの実践に入る。最終的には一人でスピーチをするが、その一つ前の段階で、安心できるパートナーと一緒にスピーチをすることで、緊張をほぐし、不安も少なくなり、さらにスピーチに自信を持つこともでき、「伝え合う力」をより育むことができた。

【言語活動資料例】



(6) 実践例6 朝の活動後など

- ① 教材名 「到達度をはかる」
- ② ねらい 生徒一人ひとりの「話すこと・聞くこと」の到達度を知り、目標を持つことで、「伝え合う力」を育む。

③ 活動の様子

【授業の展開】

最初に「発表名人になろう！」というスローガンを掲げ、生徒に各級の段階を説明した。そしてペアを作り「10級チェックシート」(資料4)を書かせた。姿勢・口形・話す速度・音量を互いにチェックし合い、その合計点で合否を判定し、次の級に進ませた。9級から上のチェックシートは、前の級を合格した後、教師から受け取るようにし、段階を踏ませて「伝え合う力」を高めた。教師は生徒にシートを渡す際、生徒を大いに褒め、激励した。

資料5は到達度1級のチェックシートである。「これができたら発表名人！」とあるように、「話すこと」と「聞くこと」のそれぞれの項目を全て達成したと認められれば、1級を合格し「名人」になる。

【伝え合う力との関連】

生徒一人ひとりに、「到達度チェック」を行わせることで、自分がどの程度「伝え合う力」が高まったか、今どのくらい力なのかがわかり、次の授業に目標を持って臨ませることができた。そして、生徒の学習に対する意欲を喚起させ、級が上がることにより、達成感を味わわせることもできた。さらに、教師も到達度に合わせた指導を行うことができた。この実践は、国語科の教科の枠にとらわれず、道徳や特別活動、総合的な学習の時間等においても「伝え合う力」が高まっているかを確認することができる方法である。

【言語活動資料例】

資料4

発表名人への道	
⑩級チェックシート	
○姿勢・口形・話す速度・音量に気をつけ聞き手を意識して話してみよう。	
『「伝え合う力」とは、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力のことです。』	
・姿勢	[3・2・1]
・口形	[3・2・1]
・話す速度	[3・2・1]
・音量	[3・2・1]
○合計点	□点

資料5

「これができたら発表名人！」	
「話すこと」	
一、話題がはっきりしていた	<input type="checkbox"/>
二、結論が明らかだ	<input type="checkbox"/>
三、ジェスチャーを交えていた	<input type="checkbox"/>
四、時間内に発表できた	<input type="checkbox"/>
「聞くこと」	
一、話し手は何を言いたいのかを考えながら聞くことができた	<input type="checkbox"/>
二、要点を絞って聞くことができた	<input type="checkbox"/>
三、メモを取り感想をまとめることができた	<input type="checkbox"/>



写真



3 公開検証授業

第1学年 国語科学習指導案

平成20年12月2日(火) 2校時
沖縄市立宮里中学校 1年6組
男子19名, 女子20名, 計39名
授業者 根間 秀雄

(1) 単元名 「話し合って伝えよう」

(2) 単元目標

目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えながら聞いたり、話題や方向をとらえて話し合いができるようにする。

- 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すことができるようにする。
- 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すことができるようにする。
- 必要に応じて質問しながら聞き取ることができるようにする。
- 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができるようにする。

(3) 単元について

① 教材観

国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、第1学年では、話し合い(グループ・ディスカッション)、スピーチについて学ぶ。また、「言葉を探検する」と題して、調べたことを発表する学習をする。第2学年では、プレゼンテーション、インタビューを学習する。また、「聞く生活を考えよう」と題して、「自分の意見を相手・目的を意識して伝える」ことを学習する。第3学年では、パネル・ディスカッションを学習する。また、「相手を意識して伝えよう」と題して、わかりやすく話すことや、「未来に向かって」と題し、中学生生活を語り合う、という学習をする。そして、「自分の意見を相手の意見と交流させながら深める」ことを学んでいく。

1年	2年	3年
発見したことを伝えよう わかりやすく説明しよう 話し合って伝えよう 調べたことを正確に伝えよう 体験を伝え合おう	「聞く生活」を考えよう 人物紹介のパンフレットを作ろう 提案の仕方を工夫しよう	相手を意識して伝えよう 話し合って考えを深めよう 未来に向かって

本単元では、生徒が4～5人のグループを作り、話し合い活動を行ったり、話し合ったことを人前でスピーチしたりする言語活動を通して、「話すこと・聞くこと」の力を高めることをねらいとしている。そこで、生徒個人の能力に合わせ、「話し方」や「聞き方」の段階的な指導をすることで、分かりやすく話をしたり、的確に聞いたりすることができるようにしたい。また、目的や場に応じた「話し合い」をする活動を取り入れ、お互いの立場や考えを尊重できる場づくりをすることで、言葉による「伝え合う力」を育み、本単元のねらいにせまることができるであろうと考える。

② 生徒観

本授業のクラスは、授業中はとても静かで、積極的に発言する生徒は少ない。「話すこと、聞くこと」に関しては、ほとんどの生徒が教師や級友の話聞く姿勢ができており、私語も少ない。事前のアンケートを実施した結果は、「授業中、人の考えをしっかりと聞いている」「どちらかというように聞いている」と答えた生徒は95%(37人)であった。また、「人前に出て発表することが苦手」が85%(33人)であった。そして、「話し合うことが好きだ、どちらかというが好きだ」は72%(28人)であった。授業中は人の考えを聞くことができ、人前に出て発表したりすることは苦手だが、グループを作って「話し合う」ことを好む生徒が多いという結果が出た。そこで、話し合い活動を手がかりに、さまざまな言語活動を通して、生徒の「話す力・聞く力」を高めていきたいと考えた。本単元では、目的や場に応じ、「話す力・聞く力」を育成することにねらいがある。そのためには、綿密な計画を施し、学習指導を工夫し、継続して行う必要がある。さらに、本授業のクラスには、話し合い活動をする際に恥ずかしがる生徒もいるので、授業の中で生徒の実態に合った学習指導を実践することにより、構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えながら聞いたり、話題や方向をとらえて話し合い活動ができるよう支援したい。

③ 指導観

アンケートの結果から、人前に出て自分の考えを発表することに対し、苦手意識を持っている生徒が多いので、単元を通して具体的な言語活動を多く取り入れ、生徒一人ひとりに「自分にもできそうだ」という自信をつけさせたい。また、「発表名人になろう」をスローガンに掲げ、話し合い等の言語活動から習得した方法をもとに、目的や場に応じた「話し方・聞き方」を自ら見出し、スピーチすることを意欲的に取り組めるように学習指導を工夫する。

しかし、「話し方・聞き方」の学習は小学校でも学習している内容であり、生徒はあらためて「伝え合う」ことの意義を学ぶことになる。生徒はこれまでの学習で何度も発表等をやっているため、その必要性が伝わりにくい。ゆえに、スピーチすることの目的を、単なるメモを見て発表することだけではなく、「質問を受けて、即座に分かりやすく説明する」ことに重点をおいて指導をすすめたい。

そこで、単元を通してスピーチの形式にこだわることなく、まずは言葉で自らの考えを表現するよう指導し、質問の仕方や答え方については、シナリオを使って、表現することに慣れさせたい。そして、授業のまとめでは、生徒自身が何を学び、どのような場面で活用していくかを把握させるための自己評価表を活用したい。これにより、本時の振り返りと、次時の学習意欲へとつながるものとする。

本研究は言語活動を「モジュール授業」として継続的に実施することで、「話すこと・聞くこと」の力を高めていきたい。通常の授業と並行し、毎時間10～15分程度、計画的に行い、「伝え合う力」の基礎となる「話す力・聞く力」の育成を図る。

(4) 指導計画

項目	時	学習内容	主な言語活動
はじめ	第1時	○「国語の五つの力」の読み合わせ ○ペア活動1 ペア作り 発声練習	教師の説明を聞く。声に出して読む。 ペアを作る際、お互いに声をかけ合う。 ペア同士で交互に発声する。
話すこと・聞くこと	第2時	○ペア活動2 発声練習 ○グループ活動1 グループ作り リーダー決め	ペア同士で交互に発声する。 教師の説明を聞く。 グループを作る際、お互いに声をかけ合う。
	第3時	○ペア活動3 発声練習 ○対話の練習1 質疑応答 ○グループ活動2 好きです+わけは	ペア同士で交互に発声する。 リーダーがルールについて説明し、他の生徒は聞く。
	第4時	○ペア活動4 発声練習 ○グループ活動3 実況アナウンス ○代表者の発表	ペア同士で交互に発声する。 リーダーがルールについて説明する。 グループ内で一人ずつ発表する。
	第5時	○ペア活動5 発声練習 ○グループ活動4 どちらが好きですか	ペア同士で交互に発声する。 リーダーを中心に選んだカードの項目について、話し合いをする。
話し合い スピーチ	第6時	○ペア活動6 声の大きさ ○グループ活動5 中間のまとめ ○代表者の発表	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。 代表者が発表する。自己評価をする。
	第7時	○ペア活動7 話す速度や音量 ○目的や場面に応じた言葉づかい ○グループ活動6 相手をかえて	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。 スピーチをする。
	第8時	○ペア活動8 言葉の調子 ○グループ活動9 スピーチの原稿作り ○代表者の発表	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。 スピーチをする。
	第9時	○ペア活動9 問の取り方 ○グループ活動10 質問事項を考える ○代表者の発表	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。 スピーチをする。
	第10時	○ペア活動10 緩急をつける。 ○グループ活動11 質問の答え方を練習する。 ○代表者の発表	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。 スピーチをする。
	本時 第11時	学習のまとめ ○ペア活動11 ○グループ活動12 ○言語活動「スピーチ」	ペア同士で交互に発声する。 グループで話し合う。全体の前でスピーチをする。質疑応答。自己評価をする。
振り返り	第12時	○ペア活動12 ○グループ活動13 これまでの学習を振り返る。 ○代表者の発表	教師の説明を聞く。 グループで話し合う。 スピーチをする。

(5) 評価

国語の 関心・意欲・態度	話すこと	聞くこと	言葉や漢字等の 知識力
○授業中の様子，発言， つぶやき，挙手等 ○授業後の感想，疑問 (自己評価表，ワークシ ート)	○授業中の発表，発言 の内容 ○発表に対する質問 ○質問に対する答え (ワークシート)	○授業中の聞く姿勢 ○相手の発言を注意 して聞く (ワークシート)	○既習内容を活かした 言葉や漢字を使う (ワークシート)

(6) 本時の指導（11／12時間）

① 本時のねらい

- ・人前を出て，発表する場面において，全体に分かるように話をするができる。
- ・質問事項を考えて人に尋ねたり，質問を聞いて答えたりすることができる。

② 授業仮説

言語活動「話し合い」「スピーチ」を学習に取り入れ，スピーチと質問のリハーサルを行うことにより，自信をもって全体の前で発表し，内容に関連した質問をしたり，答えたりして，「話す力・聞く力」を高めることができるであろう。

③ 本時の展開

過 程	学習の流れ	学習内容と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入 5 分	1 復習と確認 2 目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返る。 「授業を受ける心がまえ三か条」を確認する。 	掲示物シート1，シート 2で確認する。
展 開 40 分	3 発声練習 4 移動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">始めに発声練習をしましょう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ・母音をはっきりと発音する。 ・声の音量を上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">次にグループを作りましょう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループを作る。 ・グループのリーダーがワークシートを配布する。 ・話し合いの準備をする。 	ペア学習において互いに向かい合わせる。 戸惑っている生徒には支援する。 グループ学習において活動に参加させる。

展 開 40 分	5 話し合い	各グループで「一分間スピーチ」の順番を話し合ってください！	
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループから代表2人が発表する。 ・前もって発表する内容を話し合っておく。 <反応> <ul style="list-style-type: none"> ・誰から発表するか。 	既習の質問の仕方を思い出させる。
	6 グループ内で話し合い	各グループで、質問者の選出と質問内容を話し合ってください！	
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループから代表2人が質問する。 ・前もって発表する内容を話し合っておく。 <反応> <ul style="list-style-type: none"> ・質問の仕方が分からない。 	既習の発表の仕方を思い出させる。
	7 グループ内でスピーチ	次に各グループで、スピーチのリハーサルをしてください！	
		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの進行によって、一人ずつ「今、気になること」について発表する。 ・グループ内で修正する。 <反応> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの仕方が分からない。 	グループの話し合いをさせる。
	8 グループ内でスピーチ話し合い	次に各グループで、質問に答えるリハーサルをしてください！	
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループのメンバーで質問をし合い、即座に答えられるように練習をする。 ・グループ内で修正する。 <反応> <ul style="list-style-type: none"> ・質問に対する答え方が分からない。 	答え方を指導する。
	9 全体の場でスピーチ	これより「一分間スピーチ」を始めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ・1グループから順番に発表を行う。 ・リーダーの進行によって、一人ずつ「今、気になること」について発表する。 ・時間は1分以内。時間を計る。 ・他の生徒はあいづちを打ち、うなずきながら聞く。 <反応> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張して、思うように発表できない。 ・発表者の声が小さく聞き取れない。 		発表者に発表させる。 声かけをして緊張をほぐしてあげる。 周りを静かにさせる。	
	発表者に質問をしてみましょう！		

展 開 40 分	10 伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 各グループから一項目ずつ質問させる。 リーダーが一人ずつ指名し質問を受ける。 質問を受けるときはうなずく。 	発表者に発表させる。
	11 認め合い	<p><反応></p> <ul style="list-style-type: none"> 質問の仕方が分からない。 質問項目を忘れてしまった。 	既習の質問の仕方を思い出させる。
		質問をした人に答えてあげてください！	
	12 話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 質問者だけでなく、全体に答える。 発表後、全員で拍手して発表者を讃える。 <p><反応></p> <ul style="list-style-type: none"> どう答えていいか分からない。 答え方が思い出せない。 	個人の発表 既習の質問の答え方を思い出させる。
	一生懸命発表してくれたので、みんなで評価してあげてください！		
		<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容・仕方、質問の答え方などをそれぞれ評価する。 <p><反応></p> <ul style="list-style-type: none"> どう書いていいか分からない。 評価の仕方が分からない。 	グループ学習 話し合いの時間を設ける。 見せ合う時間を設ける。 個別指導をする。
9～12の言語活動を授業終了5分前までに繰り返しおこなう。			
ま と め 5 分	13 振り返り	<p style="border: 1px solid black; text-align: center;">今日の授業を振り返ってみましょう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価、感想の記入。 2～3名の感想を発表させる。 本時を振り返る。 次時の予告。 	机間指導しながら書き方のヒントを与える。

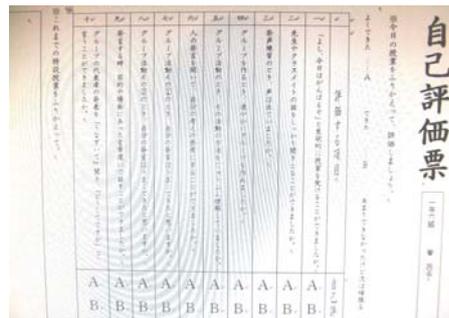
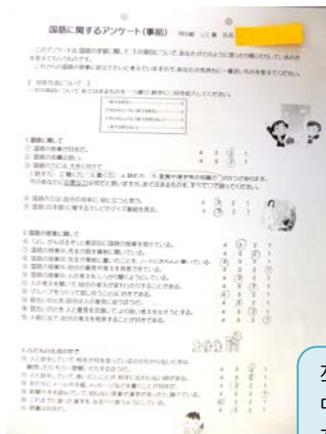
④ 事後指導

- 生徒が書いた感想を全体の場で紹介し、これまでの言語活動を振り返る。
- 発声練習、話し合い、スピーチのそれぞれの場面で、生徒を認め、褒めてあげる。
- 今後も互いの立場や考えを尊重する意識を持たせ、「伝え合う力」を育む言語活動を継続し、定着化を図る。

⑤ 評価

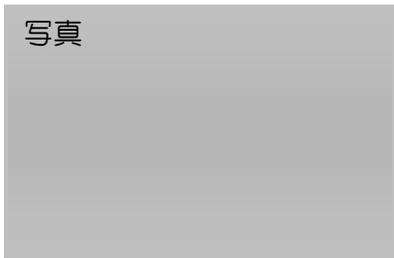
- ア 「話し合い」を取り入れることにより、生徒が自信を持って自分の考えを話すことができたか。
(評価方法：ワークシート)
- イ 「話す力・聞く力」を高める手段として、「スピーチ」「質疑応答」を取り入れることにより、質問をしっかりと聞き、それにきちんと答えることができたか。(評価方法：観察法)

(7) 資料



左の資料は最初に行った生徒実態アンケートである。中央の資料は検証授業の中間で行った自己評価である。右は公開授業後に行ったスピーチの評価である。

(8) 検証授業の様子



写真

最初の時間に、この授業で何をねらいとしているのか、目標は何かを明確にした。それを黒板に掲げ全員で読み合わせをした。



写真

グループの活動は4人で行った。自分の考えを話したり、他の人の意見を聞いたりする「言語活動」に適した人数である。



写真

「話すこと・聞くこと」の言語活動「アナウンス」を行っている場面である。グループ内で一人ずつアナウンサーになり、実況アナウンスを行った。



写真

「話し合い」の場面で、活動が停滞しているグループに声をかけ、支援している場面である。「話し合い」の進め方をアドバイスした。



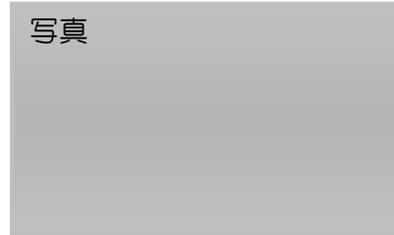
写真

表情を変えたり身振り手振り（ジェスチャー）をしたりして、伝え合っている場面である。聞き手の生徒は話し手の顔をしっかりと見ている。



写真

「話し合い」の様子である。「話すこと・聞くこと」の言語活動の一つ「バズセッション」の型で話し合いをしている場面である。



写真

スピーチに対して質問をしている場面である。グループで話し合って考えた質問事項なので、自信を持って訊ねることができた。



写真

最も評価が高かったMさんのスピーチである。原稿を見ず、落ち着いていた。また、他の生徒もうなずきながら真剣に聞いていた。



写真

「一分間スピーチ」の場面である。質問に対して答えるYさんの言葉を選びながら堂々と話すその受け答え方に、一同感心した。

4 公開検証授業の考察

(1) 検証授業の考察

授業仮説

言語活動「話し合い」「スピーチ」を学習に取り入れ、スピーチと質問のリハーサルを行うことにより、自信をもって全体の前で発表し、内容に関連した質問をしたり、答えたりして「話す力・聞く力」を高めることができるであろう。

○授業の評価について

ア「話し合い」を取り入れることにより生徒が自信を持って自分の考えを話すことができたか。
(評価方法：ワークシート)

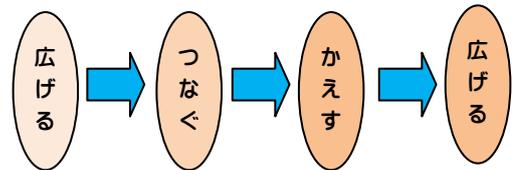
- ・「話す力・聞く力」を高めるきっかけを「話し合い」という言語活動に絞ることで、生徒の活動が活発になり、生徒の学習意欲が高まった。
- ・授業後、ワークシートの自己評価で「話し合いをすることで発表が楽になった」という生徒の感想があった。「話し合い」を取り入れたことで、生徒が緊張せずに自分の考えを話したり、友だちの意見を聞いたりすることができた。

イ「話す力・聞く力」を高める手段として、「スピーチ」「質疑応答」を取り入れることにより、質問をしっかりと聞き、それにきちんと答えることができたか。(評価方法：観察法)

- ・授業後、評価用紙の感想で「話し合いでグループがうまくまとまり、スムーズに質問ができた」「進んで発表ができた」という生徒の感想があった。話し合いにより、自分の考えを言うことに自信を持たせることができた。また、「声に出して意見を言い、質問にも丁寧に答えれば、相手は納得する」という感想もあった。「質疑応答」を取り入れたことで、生徒一人ひとりが質問したり、それに答えたりして、「伝え合う力」を育むことができた。
- ・「Yさんの質問に対する答え方が良かった」という意見や「人それぞれ好きな物があり、色々な考えがあつてすごいなと思った」という感想もあり、相手の立場や考えを尊重する、という態度を育むことができた。

(2) 授業研究会から

- ・グループ内でスピーチを練習したり、質問事項を考えたり、質問に対する答え方を予想して話し合ったりした活動が全て「伝え合う力」を育むことになっていた。
- ・二人一組になって「発声練習」をしたことや、全体の場で「質疑応答」をしたことも「伝え合う力」を育む「話すこと・聞くこと」の言語活動になっていた。
- ・「伝え合う力」が高まったという実感を持たせるために一定のレベルを示したらどうか。
- ・生徒に対し、問いかける部分が少なかった。問いかけて生徒に発言させると良い。休み時間の和やかな雰囲気や授業に持ち込むためには、語りかけをふやしたほうが良い。
- ・「発表名人になろう」と掲げているので、生徒と共有していくことが大事である。また、スピーチに対する質問を繋げていく言葉かけも必要である。



- ・リーダーを中心に「話し合い」活動をしていたが、中には積極的に話し合いに参加していない生徒がいた。教師は、活動を停止させてでも、「話し合いに参加していない人がいて、リーダーさん困っているよ、助けてあげないとね」と声をかけてみる。また、活動が停滞しているところがあれば、途中でも指導を入れる。「発表しにくそうにしているけど、どの辺りが困っているの？」等、教師が中に入って声かけをしてもいいと思う。
- ・ペア → グループ → 全体と活動の流れができていて、「対話」から「話し合い」そして「スピーチ」に発展しており、指導の流れがしっかりおさえられていた。これから、教科の他の単元で、あるいは他教科でも「言語活動」としての取り組みを実践してほしい。

Ⅷ 研究の結果と考察

本研究は『伝え合う力』を育む学習指導の工夫～『話すこと・聞くこと』を中心とした国語科の取組み～と設定し、基本仮説を『話すこと・聞くこと』の言語活動を充実させるために言葉で『伝え合う』場を設定し、工夫した学習指導を実践すれば、『伝え合う力』を育むことができるであろうとし、研究を進めてきた。さらに、基本仮説を具体化した3つの具体仮説を立て、理論研究や実態調査を行い、検証授業を実践した。そこで、具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 具体仮説1の検証

「話すこと・聞くこと」について捉えるとともに、「伝え合う力」を育成する授業の理論研究を深めることにより、学習指導の方向性が明確になるであろう。

国語科の四つの領域のうち、「話すこと・聞くこと」についてさまざまな視点から捉えた。そして「伝え合う力」の言葉の意味や「伝え合うかたち」の種類、「伝え合う力」と「話すこと・聞くこと」との関連性や「伝え合う力」を育む言語活動は何かを理論研究することで、生徒が「伝え合う力」を高めていくためには「モジュール授業」を取り入れることが有効だと分かり、それを教師がどのように指導していけばよいか明確になった。

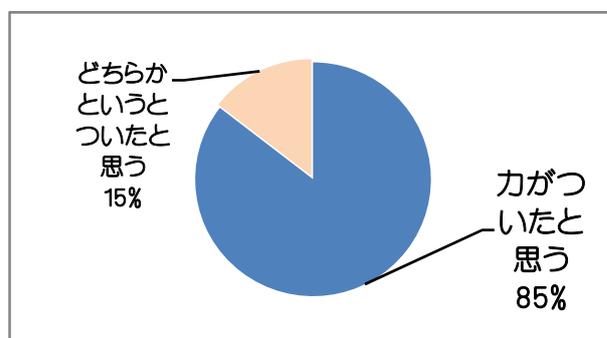
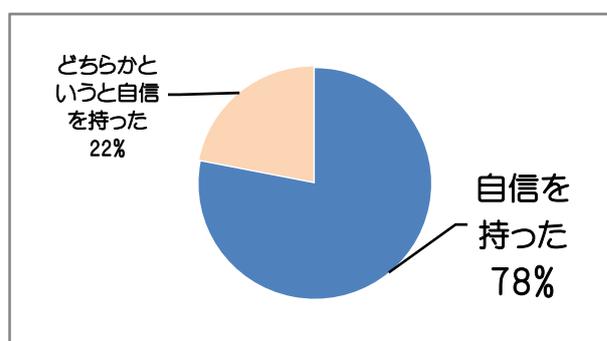
2 具体仮説2の検証

「話すこと・聞くこと」に関する実態調査や分析をし、指導計画を立てることにより、効果的な授業実践ができるであろう。

生徒の「話すこと・聞くこと」に関して実態調査を行った結果、「話すこと」に対して苦手意識をもっている生徒が多く、発言や発表をすることに自信がないという実態が明らかになった。そして、調査結果を分析し「話し合い」をきつ

けに、さまざまな言語活動を「モジュール授業」で作成した。そして生徒の実態に合った詳細な計画を立て、授業改善の工夫と、効果的な授業実践を行った。

授業前の調査では、発表が苦手としていたが、授業後の調査結果では「授業前と比べて、発言や発表に自信を持ちましたか」の質問に対し、78%の生徒が「自信を持った」と答えた。また、「前と比べて、話す力・聞く力がついたと思いますか」の質問に85%の生徒が「思う」と答えた。このことから、「モジュール授業」が生徒の「伝え合う力」を高めることができたと考える。



3 具体仮説3の検証

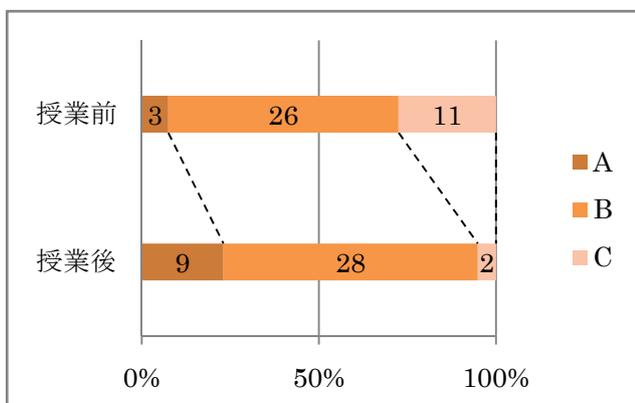
「話すこと・聞くこと」を中心に個人の能力に合わせ、段階的な指導を工夫することにより、生徒の到達度に応じた「伝え合う力」を育むことができるであろう。

生徒の実態に即し、「話すこと・聞くこと」を中心にした言語活動を「モジュール授業」にして、実践を進めた。その際、生徒一人ひとりに「到達度チェック」を行い、個人の能力に合わせ、段階的な指導ができた。

検証授業前と授業後とを比較すると、国語科だけでなく、他教科の授業でも生徒の発言が増え、授業が活発になった。また、以前は全く発言しなかった生徒も、小さい声ながらつぶやきが聞こえるようになった。

検証授業前、39名中3名が「よく発言する生徒」(A)、25名が「指名したら発言する生徒」(B)、11名が「発言しない生徒」(C)であった。

授業後の割合は、Aが授業前より6名増えて9名、Bは3名増えて28名、Cは11名が2名になった。「発言しない生徒」のうち、減少した人数がA、Bの「発言する」に移行した。



伝え合う力を育む学習指導の工夫と実践により、多くの生徒が発言や発表に自信を持ち、話す力・聞く力をつけることができた。今後、さらに伝え合う力を育む活動を進めながら、個人の能力に合わせた学習指導を工夫し、より良い授業を行っていききたい。

Ⅸ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

「伝え合う力」を育む学習指導を行うため、「話すこと・聞くこと」を中心に以下の項目で工夫を図り、本研究のテーマに迫ることができた。

- ・生徒へのアンケート調査を行うことで、生徒一人ひとりの「話すこと・聞くこと」に関する実態を把握し、また、生徒の能力に応じた学習指導を工夫し、言語活動を計画して展開することができた。
- ・気の合う友達とペアを作らせたことで、「発声練習」や「グループの話合い」、「ペアスピーチ」や「到達度チェック」等さまざまな言語活動をスムーズに行うことができた。
- ・「話すこと・聞くこと」の言語活動について捉え、「伝え合う力」を育むための「モジュール授業」について理論研究することにより、新しい指導計画を作成し、生徒の段階に応じた学習指導の工夫と実践ができた。
- ・生徒の意見や考えを取り入れ、グループでの話合いを通して言語活動を展開することで、生徒自身がこれまで苦手だった発言や発表することに面白さを見出し、またその面白さを言葉として表現し伝え合うことで、生徒と一緒に活動の展開を工夫することができた。
- ・授業を通して、生徒の発言や発表する雰囲気生まれ、生徒が、友達の意見をうなずいて聞き、グループで話し合ったことを後ろ盾に、自信を持って発表することができた。

2 研究の課題

今後、伝え合う力を育む学習指導を充実するために以下のことに取り組みたい。

- ・生徒が意欲的に活動できるような教材の工夫
- ・コンピュータなどの効果的なITCの利活用
- ・生徒全員を対象にした習熟度別指導の実施
- ・教科による領域ごとの系統的学習計画の作成
- ・言語活動における国語科と他教科との連携

〈主な参考文献・引用文献〉

- ・文部科学省 2008「中学校学習指導要領」
- ・文部科学省 2008「中学校学習指導要領解説」東洋館出版社
- ・安居總子 編 2006「話すこと・聞くこと指導の方法」光村図書
- ・瀬川榮志 監修 2007「対話力アップワーク」明治図書
- ・野口芳宏 編 2006「話すこと聞くことマスターカード」明治図書
- ・高蔦幸広 著 2008「自分の意見をきちんと伝える技術」PHP研究所
- ・D・カーネギー 著 2007「話し方入門」創元社
- ・「指導と評価」No.54 日本教育評価研究会
- ・「教職研修」第434号 教育開発研究所